



申請者	学科名	造形デザイン学科	職名	准教授	氏名	島田 清徳	印	
調査研究課題	視覚障害者を含むすべての鑑賞者が身体感覚で楽しむ体感型展覧会の実践研究							
交付決定額	400,000円							
調査研究組織	氏名	所属・職	専門分野	役割分担				
	代表	島田 清徳	デザイン学部 造形デザイン学科	テキスタイル	企画、出品者選抜、大学側経費に係ること（印刷、雇用、ワークショップ消耗品、等）			
	分担者	福富 幸	岡山県立美術館 学芸員	展覧会企画 美術館運営	企画運営、出品者選抜、出品者間調整、展示計画、美術館側経費に係ること（展示用造作、広報、監視員人件費、搬出輸送、調査打合、等）			
調査研究実績の概要 （地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）	<p>テキスタイル素材や紙・石・木・金属などを使って作品づくりを行っている岡山ゆかりの研究者により、素材の特性を体感できる展覧会を実践した。</p> <p>普段は美術館の展示作品に触れる機会は多くないが、本展では、触れることを前提とした作品を制作・展示することから、皮膚や五感を通して造形と素材の魅力に出会うこととなる。作品を楽しみながら作品の向こうに広がる制作者の思いや姿を感じとり、さらに、鑑賞者自身が自分なりの意味をつむぎだすことができる場と機会を幅広い年齢層の一般市民に向け、つくり出すことができた。</p> <p>近年、大学や学校現場との連携を通して美術館のアクセシビリティを高める活動は大いに注目されている。本展でも、積極的に小・中学校の団体観覧を受け入れ、さまざまなワークショップや出張講座を通じて美術との出会いの場を提供した。</p> <p>3月20日現在での団体観覧の受入れは以下のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 小学校（広島県、4年生2クラス約80名） ・ 保育園（岡山市、5歳児約25名） ・ 中学校（倉敷市、1年生約230名） 							

<p>調査研究実績の概要</p> <p>（地域貢献への反映を踏まえて記述のこと）</p>	<p>「目の目 手の目 心の目 一体感の向こうに広がる世界-」展</p> <ul style="list-style-type: none"> ○主催：岡山県立美術館 ○開催場所：岡山県立美術館 2階展示室ほか ○開催年月：平成27年3月14日（土）～4月19日（日） ○協賛：岡山県立大学、くらしき作陽大学、島根県立大学、京都文教短期大学、京都市立芸術大学、岡山県立美術館 学校と美術館連携委員会 ○出品者：太田三郎（造形作家・津山市在住） 和紙・切手・繊維などによる空間造形作品 北川太朗（京都文教短期大学特任講師・倉敷芸術科学大学非常勤講師） 石材による立体造形作品 草間詰雄（岡山県立大学デザイン学部名誉教授） 糸を用いた空間構成によるインスタレーション作品 向後千里（くらしき作陽大学准教授・フードコーディネーター） オリジナルEcoスイーツ、映像作品、食に関する体験型作品 島田清徳（岡山県立大学デザイン学部准教授） 布の集積による回廊状の空間造形作品 福井一尊（島根県立大学短期大学部准教授） 金属（銅、アルミ等）などによる立体造形作品 三橋遼（京都市立芸術大学教授・岡山県立大学大学院非常勤講師） 糸、石・金属・木などによるミクストメディア作品 南川茂樹（岡山県立大学デザイン学部准教授） 木材による立体造形作品（可動式鑑賞装置） ○出前授業およびワークショップ： 出前授業 小学校（岡山県、6年生19名、5年生21名） 北川太朗 小学校（岡山県、6年生59名） 福井一尊 ワークショップ 「テープ！TAPE！てーぷ！」 島田清徳 「切って貼って・一緒につくるワークショップ」 太田三郎 「和菓子のカラフル・テーブルコーディネート」 向後千里 「ぐるぐるぐるぐるフェルトメイキング」 島田清徳 「ひたすら磨いて銅鏡をつくる」 福井一尊 ○代表者の出品作品 <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>
<p>成果資料目録</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 展覧会のチラシ ・ 展覧会の概要（美術館ホームページの抜粋） ・ 山陽新聞掲載記事（2件）